

中学部一般学級における各教科「職業・家庭」での授業の取組  
～「大人への階段」～

熊本県立荒尾支援学校

本校中学部一般学級では、これまで各教科の授業の充実を図ってきました。その中で昨年度から「職業・家庭」の時間において、過去・現在・未来へとつなぐ「大人への階段」

(図1)と題する授業を展開しています。職業・家庭の意義については、学習指導要領に「職業生活や家庭生活に関連の深い内容を1つのまとまりとした活動に取り組み・・・職業生活及び家庭生活に必要で基礎的な知識、技能及び態度を習得し、それらを日常生活や実習などで生かすことによって、実践的な態度を育成する・・・」と示されています。中学部では、小学部の「生活科」の観点である「役割」や「手伝い・仕事」の内容との関連を図り、さらに高等部の「職業科」の観点である「勤労の意義の理解」や「職業生活に必要な能力」や「実践的な態度」へとつなぐためにカリキュラムの改善に取り組みました。

本年度の「職業・家庭」の年間の学習計画は、図3に示した通りです。実際の授業では、図1、図2に示すように、大人になるためのステップ、将来の生活について説明し、今必要な力として家庭でのお手伝いの大切さについて説明しました。このことについては、実際にどんなお手伝いに取り組んできて、今取り組んでいるのか。また、そのことについて授業の中で発表する時間を設けることで、生徒自身がお手伝いについて興味関心を高められるようにしました。(図4)

また、中学部を卒業する生徒のほとんどが本校の高等部への進学を希望していることから、高等部の主事や進路指導主事にも授業への協力を仰ぎ、高等部での具体的な授業の様子や様々な活動、必要とされる力について説明し、また「大人の生活1」(図3)では、卒業後の生活について仕事への取組や余暇の過ごし方について進路指導主事から説明をしました。授業の後には必ず「振り返りの時間」を設け、クイズ形式で内容を振り返り、知識の理解と定着を図りました。「大人の生活2」(図3)では、本校の卒業生の話を聞く機会を設け、卒業生の仕事先の協力を得ながら、仕事中的様子をVTRで生徒たちに見せながら実際の仕事現場の話を行いました。

このように、校内外の人材を生かし職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識、技能及び態度の習得を図りながら、それらを日常生活で生かすために、家庭との連携を図りながら「お手伝い」を宿題として日常化を図ったり、実習で生かすために「大人の生活3」(図3)での作業学習(サービス業と製造業)に取り組んだりしながら、職業・家庭の時間を通して育てたい力の育成にとりくんでいます。

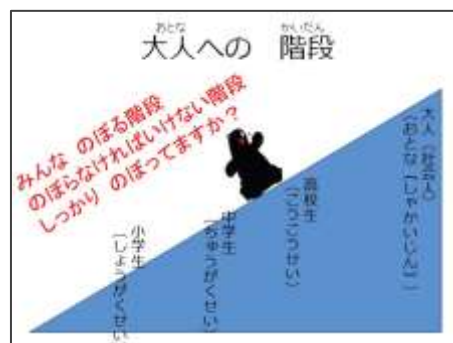


図1 (授業導入スライドより)



図2 (授業導入スライドより)

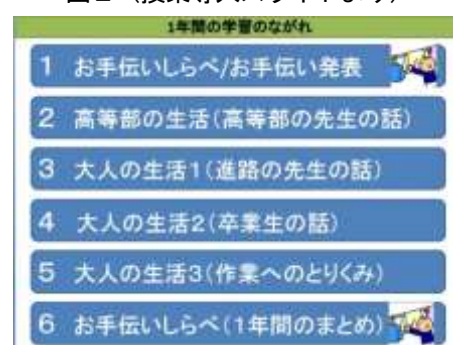


図3 (授業導入スライドより)



図4 (お手伝い発表の様子から)